



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛。

なお、原稿も必ずFaxで0422-31-5487までお送りください。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター特任助教

1. 特任助教 1名
2. (1) 東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター
(2) 三鷹（ただしチリやオランダへの長期出張あり）
3. 観測天文学
4. 超伝導デバイスを用いたミリ波サブミリ波観測機器の開発研究を本学および関連研究機関の職員等と協力して推進する。
(科学研究費基盤研究(A)「超伝導共振器を使ったオンチップ型低分散超広帯域サブミリ波分光計の実証」(平成25-28年度)による雇用)
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
(2) 年度ごとの更新制。最長で平成29年3月31日まで更新可能。
6. 博士の学位を取得または平成26年3月31日までに取得見込みの者。国籍は問わない。
7. 履歴書、研究歴、論文リスト、抱負、応募者について意見を伺える方2名の氏名および連絡先。
8. 平成25年12月20日(金) 17時まで必着。
9. (1) 〒181-0015 東京都三鷹市大沢2-21-1
東京大学大学院理学系研究科天文学教育研究センター センター長 吉井 譲
(2) 吉井 譲 E-mail: yoshii@ioa.s.u-tokyo.ac.jp
Tel: 0422-34-5027, Fax: 0422-34-5087
10. 直接持参するか簡易書留で郵送。

11. 東京大学特定有期雇用教職員の就業に関する規程」に定める特任助教とする。同規程に基づき特任助教の給与は経歴により決定する。

東京大学理学系研究科では、男女共同参画を積極的に推進しています。詳しくは、下記URLの理学系研究科男女共同参画基本計画をご覧ください。

<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/gai/sankaku/kihonkeikaku.html>

国立天文台ハワイ観測所サポート・アストロノマー

1. サポート・アストロノマー 1名
2. (1) 国立天文台ハワイ観測所
(2) アメリカ合衆国ハワイ州ヒロ
3. 天文学及び関連分野
4. 国立天文台ハワイ観測所では、すばる望遠鏡による共同利用観測を推進しています。すばる望遠鏡による観測を科学的観点から支援しつつ（勤務時間の約50%）、科学的成果をあげていくことのできる、サポート・アストロノマーを求めます。具体的な職務及び必要な能力等の詳細については、下記を参照してください。
<http://www.subarutelescope.org/Announce/2013/10/16/index.html>
5. (1) 採用決定後できるだけ早い時期
(2) 3年（3年後の審査の結果、新たに任期5年のSenior Resident Astronomer（30%サポート業務）、あるいは、任期なしのSenior Support Astronomer（100%サポート業務）になれる可能性があります）
6. 大学院博士課程修了
7. (1) カバーレター、(2) 履歴書（レジュメ）、(3) 職歴（給与歴も含む）、(4) 本人について意見を述べられる方3名の氏名と連絡先（e-mail）、(5) 学位取得証明書のコピー、カバーレターにはこれまでの研究歴や今後の研究計画等、サポート・アストロノマーとしての適性が判断できる内容を含むこと。
8. 2013年12月15日（ハワイ時間）

9. (1) www.rcuh.comからオンラインにて提出。詳細は下記を参照。
<http://www.subarutelescope.org/Announce/2013/10/16/index.html>
 (2) Debbie Guthier +1-808-934-5904 (Hawaii).
10. 提出書類はすべて英語です。必要に応じて面接を行うこともあります。
11. Research Corporation of the University of Hawaii (RCUH)での雇用となります。選考はハワイ観測所の審査委員会が行います。

東京大学宇宙線研究所特任研究員 (研究所研究員)

- 若干名
- (1) 宇宙線研究所
(2) 指定なし
- 指定なし
- 宇宙線研究所で行われている広い意味の宇宙線の観測的、あるいは理論的研究を本研究所教員とともに遂行して下さる方を募集します。
- (1) 平成26年4月1日から10月1日までのなるべく早い日
(2) 雇用は年度ごとに更新し、任期は原則として2年間とします。
任期満了後の再応募は可能ですが、東京大学特任研究員としての通算雇用期間は5年を超えることができません。
- 雇用の時点で博士号を取得しているか、確実に取得できる見込みの者。
性別・国籍・研究経歴によらず、広く関連する研究分野から活発な応募を期待します。
- (1) 履歴書(市販の様式相当、博士号の有無・取得見込み、電子メールアドレスを必ず記入してください)、(2) 研究歴(A4判で2ページ以内)、(3) 研究計画(A4判で2ページ以内)、(4) 業績リスト(論文リスト、国内外での学会等での本人による口頭研究発表リスト等)及び主要論文別刷り各1部(3編以内)。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにしてください。(5) 希望する研究分野及び受入担当教員(受入担当教員名がわからない場合などはなくても可)、(6) 本人に関する意見書2通
- 平成25年12月12日(木)17時必着
- (1) e-mail: application@icrr.u-tokyo.ac.jp
郵送 〒277-8582 千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学宇宙線研究所 総務係

- (2) 〒277-8582 千葉県柏市柏の葉5-1-5
 東京大学宇宙線研究所長 梶田隆章 宛
 Tel: 04-7136-3100
 e-mail: kajita@icrr.u-tokyo.ac.jp
10. 書類を原則として電子メールに添付で提出してください。やむを得ない場合は書留での郵送でも結構です。郵送の場合は封書に「特任研究員応募書類在中」と朱書きしてください。
 意見書は、作成者から直接電子メールに添付又は郵送で提出してください。(電子メールによる提出に対しては、受信した旨の返信をいたしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。)
11. 「東京大学特定有期雇用教職員の就業に関する規程」に規定する特任研究員とします。
 給与は、「東京大学年俸制給与の適用に関する規則」に規定する基本年俸俸給表2号俸(月額300,000円)、及び業績・成果手当として月額30,000円を支給予定です。(合計基本月額330,000円支給予定) 保険は文部科学省共済組合に加入、手当は通勤手当を支給します。
 選考: 選考委員会による書類選考(第一次審査)を行い、最終選考は、面接によります(面接予定日: 平成26年1月11日(土)。面接を受けていただく方には詳細を連絡します)。
 「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募を歓迎します。

研究会・集会案内

名古屋大学大学院理学研究科・名古屋市科学館共催 第12回坂田・早川記念レクチャー

「アインシュタインに見る20世紀の物理学」

佐藤文隆氏(京都大学名誉教授/甲南大学特別客員教授)

平成25年12月15日(日)14時~16時30分
 名古屋市科学館サイエンスホール

■対象: 高校生以上

■定員: 300名(申込み制, 多数の場合は抽選)

参加には科学館の観覧料が必要です(高校生, 大学生200円/大人400円)。

■講演会ホームページ:

<http://www.ta.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa2013>

～集まれ、科学者を夢見る若者たち！～

名古屋大学大学院理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻は、素粒子物理学と宇宙物理学の両分野における世界の研究の発展に寄与し、ノーベル賞受賞者をはじめ、多くの人材育成に関わってきました。坂田・早川記念レクチャーは、坂田昌一・早川幸男両教授の業績をたたえつつ、21世紀を担う研究者の発掘および育成を目的として設けられました。

第12回となる今回は、日本を代表する宇宙物理学者であり、従来の物理学の範疇を超えた幅広い分野の著作でも知られる佐藤文隆氏をお招きします。講演では、二十世紀の科学の流れを、「科学革命」「力強い科学」「宇宙ロマン」「ハイテクの父」というアインシュタインの4つの顔と、後半生で貫いた「量子力学への反対」という態度を軸にしながら解説して頂きます。さらにこれからの物理学、科学、文化が進んでいく方向性について、ユーモアを交えつつ語っていただきます。

申込方法：インターネットか往復はがきによるお申込みが可能です。

(申込みで寄せられた個人情報、本セミナーの運営に必要な範囲でのみ使用します)

1) 講演会ホームページ
<http://www.ta.phys.nagoya-u.ac.jp/SakataHayakawa2013> からお申込み。

2) 往復はがきに、住所、氏名、高校生・大学生・一般の区分、電話番号、返信部分に申込者の宛名を記入して、
 〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1
 名古屋科学館「坂田・早川記念レクチャー」係
 まで郵送。

申込み締切り：12月1日

締め切り後にも座席に余裕があれば参加していただけます。お問い合わせください。

問い合わせ先：

講演の内容等に関するお問い合わせ

〒464-8602 名古屋千種区不老町

名古屋大学大学院理学研究科

e-mail: stakeru@nagoya-u.jp

Tel: 052-788-6196 (担当) 鈴木 建

申込方法、会場に関するお問い合わせ

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17-1

名古屋科学館

Tel: 052-201-4486 (担当) 天文係 持田大作

注：高校などでまとまって参加希望される場合は、お問い合わせください。

会務案内

日本天文学会 2013 秋季年会報告

2013年秋季年会は、9月10日(火)から12日(木)の3日間、東北大学(宮城県仙台市)にて口頭講演会場10、ポスター会場8を使って開催された。講演件数は口頭講演が495件、ポスター講演が257件で、合計752件の講演があった。年会参加者は946名であった。これに加えジュニアセッションの参加者が3名あった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え企画セッション1件も開催された。開催地理事の山田亨氏をはじめとした東北大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次頁の53名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する(敬称略)

<記者会見>

春季年会の前日、9月9日(月)13:30から東北大学片平キャンパスにて行われた。桜井隆会長からの挨拶と日本天文学会秋季年会の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関3社の出席があった。

●研究発表

(1) 「「視力50万の瞳」が捉えた「ソンプレロ銀河」の中心に潜む超巨大ブラックホールの周辺構造」
 記者会見出席者：秦和弘(国立天文台水沢VLBI観測所/イタリア電波天文学研究所/日本学術振興会特別研究員)、ほか
 関連する講演番号：S14a

(2) 「緑色波長帯でいびつに大きく拡がったオリオン座の1等星ベテルギウス：一高解像撮像技術によって赤色超巨星の大きさや形を捉える」
 記者会見出席者：三浦則明(北見工業大学工学部・教授)
 関連する講演番号：N02a

<企画セッション>

【超高精度CMB偏光全天観測時代の天文学】

本企画セッション「超高精度CMB偏光全天観測時代の天文学」は、インフレーションモデルの観測的実証を動機づけとし、超伝導検出器開発の昨今の飛躍的進歩に後押しされ、今後目覚ましい進展が期待される宇宙マイクロ波背景放射(CMB)偏光全天観測分野を俯瞰し、宇宙論研究者と天文学者が一同に会して超

	9月10日(火)		9月11日(水)		9月12日(木)	
	11:00-13:00	15:00-17:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30
A会場	J2. 高密度星 田代信 (埼玉大学)	J2./J1. 高密度星 根来均 (日本大学)	J1. 高密度星 中島基樹 (日本大学)	J1. 高密度星 寺田幸功 (埼玉大学)	J1. 高密度星 幸村孝由 (工学院大学)	J1. 高密度星 高橋弘充 (広島大学)
B会場	S. 銀河核 新沼浩太郎 (山口大学)	S. 銀河核 三澤透 (信州大学)	S. 銀河核 川勝望 (呉高専)	N. 恒星 川端弘治 (広島大学)	N. 恒星 板由房 (東北大学)	N. 恒星 前田良知 (ISAS/JAXA)
C会場	L. 太陽系 佐藤文衛 (東京工業大学)	Q. 星間現象 田中邦彦 (慶應義塾大学)	Q. 星間現象 立松健一 (国立天文台)	Q. 星間現象 松尾宏 (国立天文台)	Q. 星間現象 信川正順 (京都大学)	Q. 星間現象 山内茂雄 (奈良女子大学)
D会場	K. 超新星爆発 田中雅臣 (国立天文台)	K. 超新星爆発 梅田秀之 (東京大学)	X. 銀河形成 岡本崇 (北海道大学)	X. 銀河形成 今西昌俊 (国立天文台)	X. 銀河形成 田村陽一 (東京大学)	X. 銀河形成 廿日出文洋 (国立天文台)
E会場	Y. 教育・他 阪本成一 (ISAS/JAXA)	Y. 教育・他/M. 太陽 伊藤信成 (三重大学)	M. 太陽 清水敏文 (ISAS/JAXA)	M. 太陽 政田洋平 (神戸大学)	M. 太陽 花岡庸一郎 (国立天文台)	M. 太陽 寰島敬 (海洋研究開発機構)
F会場	V1. 地上観 前澤裕之 (大阪府立大学)	V1. 地上観 杉本正宏 (国立天文台)	V1. 地上観 浅山信一郎 (国立天文台)	R. 銀河 矢野太平 (国立天文台)	R. 銀河 小麥真也 (国立天文台)	R. 銀河 松下聡樹 (台湾中央研究院)
G会場	U. 宇宙論 高橋龍一 (弘前大学)	U. 宇宙論 荒木田英禎 (日本大学)	V2. 地上観 池田優二 (京都産業大学)	V2. 地上観 柳澤顕史 (国立天文台)	V2. 地上観 鈴木竜二 (国立天文台)	V2. 地上観 白田知史 (国立天文台)
H会場	P1. 星・惑星 大西利和 (大阪府立大学)	P1. 星・惑星 酒井剛 (電気通信大学)	P1. 星・惑星 大橋永芳 (国立天文台)	P1. 星・惑星 井上剛志 (青山学院大学)	T. 銀河団 大橋隆哉 (首都大学東京)	
I会場	A. CMBPo 佐藤勝彦 (自然科学研究機構)	A. CMBPo 半田利弘 (鹿児島大学)	P2. 星・惑星 松尾太郎 (京都大学)	P2. 星・惑星 本田充彦 (神奈川大学)	P2. 星・惑星 町田正博 (九州大学)	P2. 星・惑星 奥住聡 (東京工業大学)
J会場	W2. 飛翔観 泉浦秀行 (国立天文台)	W2. 飛翔観 松浦周二 (ISAS/JAXA)	W1. 飛翔観 米徳大輔 (金沢大学)	W1. 飛翔観 玉川徹 (理化学研究所)	W1. 飛翔観 村上弘志 (東北学院大学)	W1. 飛翔観 中澤知洋 (東京大学)

高精度CMB偏光全天観測が切り拓く宇宙論及び天文学の新展開について意見交換を行うことを目的として企画された。依頼した4件の基調講演に加え、tennetなどにサーキュラーを配信して講演を募ったところ、12件と多くの講演が申し込まれた。セッションは、一部をb講演に振り替えてポスター発表とし、口頭講演は、年会1日目の午前と午後の2部構成でI会場にて行われた。多くの聴衆(各80名程度)が参加し、活発な質疑応答が行われ、盛況なものとなった。講演は、CMB偏光観測に携わるグループから、地上あるいはスペースからの将来観測計画、データ解析手法、将来の21 cm線探索計画と絡めた宇宙論及び宇宙磁場研究、日本独自の全天あるいは広域探索観測と絡めた星間塵及び星間分子雲研究、と幅広い専門分野の研究

者からの報告があった。このように超高精度CMB偏光全天観測に関わる宇宙論及び天文学の研究者が国内で一同に会し、成果発表を通じて意見交換を行う機会は稀である。本企画セッションを通じて、超高精度CMB偏光全天観測をキーワードに国内のどのような研究者がどのような興味でどのような関連研究を推進しているかを多くの研究者が知る機会となったことが、本企画セッション実施の大きな成果の一つであったと考える。例えば、本企画セッションを契機として、いくつかの具体的なコラボレーションが立ち上がったことは、その具体的な成果と言える。このように本企画セッションは、超高精度CMB偏光全天観測に関心をもつ宇宙論研究者と天文学研究者を橋渡し、それが切り拓く宇宙論及び天文学の新展開について意見交換

を行うという当初の目的を十分果たすことができた。本企画セッションの実施が、当該分野の日本でのさらなる盛り上がりの契機になることを期待したい。（服部誠）

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催で、2013年9月10日（火）17:00より18:30まで、B会場にて「新時代の天文学広報戦略～大型プロジェクトの取り組みから～」をテーマに行われた。参加者数は約100名であった。

話題提供では、まず宇宙航空研究開発機構の阪本成一さんから、「JAXA宇宙科学研究所における取り組みから」というタイトルで、地域連携を重視した取り組みを中心に紹介いただいた。無関心層やプロジェクトに否定的な意見に対しても、信頼性や共感を得ることで関心を得ていくことの必要性について指摘された。つづいて、国立天文台チリ観測所の平松正顕さんから、「ALMAにおける取り組みから」と題して、国際プロジェクトにおける広報活動の状況を紹介いただいた。そして電波天文学という分野、日本から遠く位置する環境からの情報発信として一般に共感を得るために、研究者や技術者を紹介する形で広報を行う、「人」の重要性について指摘された。府中市郷土の森博物館の本間隆幸さんからは「TMTにおける取り組みから～club TMTを中心に～」というタイトルで、科学館やプラネタリウム関係者を中心に設立された、TMTプロジェクトの応援組織「club TMT」による活動を紹介いただいた。研究者だけでなく天文教育・普及に関する組織と連携することの有益性や、天文教育施設が市民に広くアプローチできる観点での広報活動を指摘された。

議論では、リスクマネジメントの重要性や、関心を示さない層にどのように転換を促していくか、教育活動と広報活動のバランスなどについて話題となった。また、すばる望遠鏡におけるこれまでの活動を踏まえたコメントも寄せられた。（安藤享平）

〈懇親会〉

懇親会は学会2日目の9月11日（水）に、東北大学内「川内の杜ダイニング」で開催した。参加者数は、事前予約274名（一般170名、学生104名）、当日申込56名（一般33名、学生23名）の合計330名（一般203名、学生127名）、開催地スタッフ5名であった。会は秋山正幸さん（開催地担当）の進行で始まり、東北大学大学院理学研究科・副研究科長の早坂忠裕教授からの歓迎のことばに続いて、櫻井隆会長からのご挨拶と乾杯の発声により懇親会の開始となった。今回

は、東北産海鮮や宮城一円の地酒に加えて、石巻復興応援コーナー、仙台名産牛タン焼き、笹かま焼きコーナー、にぎり寿司実演コーナー、など企画も盛りだくさんで用意をしたが、いつものように学会員皆様の旺盛な食欲はいかなく発揮された。また、仙台市を本拠とされ「なつみちゃん」の印で有名な「白雪どうふ」様からは、「こだわりの生のおいしいどうふ」「元祖・絹あげ」「三角あげ」を多数提供いただき、皆でたいへん美味しくいただいた。最後に東北大学理学研究科天文学専攻・専攻長の市川隆さんの挨拶に続いて次回開催地理事の石丸友里さんから国際基督教大学の学会の参加への呼びかけがあり、散会となった。

（山田亨）

〈保育室〉

保育室を東北大学講義棟C棟4階404号室にて開設した。7家族子ども9名の利用があった。準備にあたり東北大学スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。（峰崎岳夫、中道晶香）

〈ジュニアセッション〉

ポスター講演のみを募集し、2件の発表があった。内容は、彗星1件、惑星組成1件であった。うち1件では、3名の中学生たちが参加し、春に観測したパンスターズ彗星の解析についてポスター会場で活発な議論が行われた。ポスターへのコメントを収集し、発表者に送付した。ポスター会場をご準備いただいた開催地の方々へ感謝する。（大西浩次）

〈公開講演会〉

公開講演会は、9月14日（土）13:30～17:00に東北大学片平キャンパス「さくらホール」において、「宇宙は伊達じゃない!? 仙台からたどる宇宙の始まりから惑星形成」というタイトルで行われた。広い世代の方が約100名参加いただいた。

山岡均天文教育理事の司会により、櫻井隆会長の挨拶に続き、3名の講師による講演が行われた。最初は、仙台市天文台長の土佐誠さんによる講演「仙台における天文普及活動—仙台市天文台の60年」で、仙台市天文台のなりたちや仙台における天文活動の発展を、往時の写真のスライドやエピソードとともに紹介された。仙台市は口径1.3mの望遠鏡、プラネタリウムをもつ有数の公共天文台の一つだが、この礎を築かれた関係者の方々がとても身近に感じられる、内容豊かな講演であった。なかでも、連日の夜を徹しての人工衛星追跡観測会の様子などはたいへん興味深いものであった。つづいて、東北大学大学院理学研究科・教

授の二間瀬敏史さんが「すばるでさぐる宇宙のダークサイド、暗黒物質と暗黒エネルギー」という題で講演され、宇宙の暗黒物質や暗黒エネルギーがなぜ存在すると考えられているのか、その正体に挑む研究がどのように行われているのかについてわかりやすく話された。最後にはすばる望遠鏡の新装置・HSCへの期待も紹介された。最後には、地元・仙台のご出身でもある国立天文台・教授の小久保英一郎さんが、「星くずから地球へ」という題で講演された。文字どおりの「星くず」から原始惑星系円盤でどのように惑星が形

成されるのか、とくに微惑星からの寡占的成長、原始惑星の巨大衝突などの結果として現在の太陽系のような地球型惑星ができるまでを迫力ある講演で話された。いずれの講演に対しても質疑応答が活発に行われた。参加者にも好評だったようである。なお、本公演会は、東北大学、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、KHB東日本放送、仙台放送、ミヤギテレビ、TBC東北放送の後援で実施された。(山田亨)
(年会実行委員長：宮田隆志)

公益社団法人日本天文学会へ2013年5月1日～8月31日に入会された方、移籍された方、退会された方をお知らせします。

正会員入会 (52名)

竹重聡史	京大・大学院理 (在学)	小野里宏樹	東北大・大学院理 (在学)
春日恵美	東京大・大学院理/国立天文台 (在学)	霜田治朗	青山学院大・大学院理工 (在学)
米原 遊	東京工業大・地球生命研究所	大崎茂樹	大阪府立大・大学院理 (在学)
那須田哲也	東京大・大学院理 (在学)	堀内洸介	大阪府立大・大学院理 (在学)
松村英晃	京都大・大学院理 (在学)	石田裕之	大阪府立大・大学院理 (在学)
水本岬希	東京大・大学院理 (在学)	池田喜則	大阪府立大・大学院理 (在学)
岡田 望	大阪府立大・大学院理 (在学)	安楽健太	鹿児島大・大学院理工 (在学)
加藤裕太	東京大・大学院理/国立天文台 (在学)	上田翔士	東京工業大・理工 (在学)
三宅克馬	東京大・大学院理 (在学)	岩瀬敏博	名古屋大・大学院理 (在学)
小野 光	東京大・大学院理 (在学)	立花 献	名古屋大・大学院理 (在学)
上司文善	大阪大・大学院理 (在学)	片倉 翔	東京学芸大・教育学 (在学)
今野 彰	東京大・大学院理 (在学)	山日彬史	東京学芸大・大学院教育 (在学)
加藤佑一	東京大・大学院理 (在学)	中原聡美	鹿児島大・大学院理工 (在学)
濟藤祐理子	国立天文台・ハワイ (在学)	宮川賢人	工学院大・大学院機械工学 (在学)
山田慧生	弘前大・大学院理工 (在学)	荒尾幸絵	国際基督教大・大学院理 (在学)
尾崎駿介	宮崎大・大学院工 (在学)	関 喆泓	総研大・物理学/国立天文台 (在学)
竹川俊也	慶應義塾大・大学院理工 (在学)	須田武憲	京都大・大学院理 (在学)
新郷沙耶	奈良女子大・大学院人間文化 (在学)	澤村将太郎	東京学芸大・大学院教育 (在学)
森 智彦	茨城大・大学院理工 (在学)	平井遼介	早稲田大・大学院理工 (在学)
Soon Kang Lou	茨城大・大学院理工 (在学)	尾上匡房	国立天文台・光赤外 (在学)
河野隼也	東京大・大学院理 (在学)	鬼塚昌宏	国立天文台・光赤外 (在学)
武吉 司	宮崎大・大学院工 (在学)	小高裕和	JAXA・宇宙科学研究所
吉留大貴	宮崎大・大学院工 (在学)	川俣良太	東京大・大学院理 (在学)
黒川宏之	名古屋大・大学院理	泉 洗次	弘前大・大学院理 (在学)
長谷川敬亮	名古屋大・大学院理 (在学)	佐治重孝	名古屋大・大学院理 (在学)
Lee Minju	東京大・大学院理/国立天文台 (在学)	藤井顕彦	東京大・大学院理 (在学)

準会員入会 (14名)

戸田晃太	岡山大・大学院理	三浦 悠	岡山理科大・理
向川顕秀	都立高校	河口賢至	広島大・大学院理
高田明寛	京都大・大学院理	古井俊也	広島大・大学院理

林 孝典 広島大・大学院理
松田光博 東洋電機(株)
狩野智亮 弘前大・理工
安武宏昭 千葉県松戸市在住

副島隆史 大分大・大学院教育
横田佳奈 東京理科大・大学院理
窪田邦昭 東京都八王子市在住
石崎昌春 国立天文台・天文情報センター

移籍 [準→正] (2名)

梶田隆章 東京大・宇宙線研究所
神田展行 大阪市立大・大学院理・数物系

正会員退会 (3名)

西田瑛量 古家野 誠 表 尚平

準会員退会 (2名)

難波 收 白石希典

編集委員会より

2014 年表紙デザイン決定

応募作品の中から編集委員会で選考の結果、Eska さんのデザインを3年連続で採用させていただくことになりました。お楽しみに！

訃 報

藤本光昭 氏(元 副理事長)が2013年10月22 日にご逝去されました(享年81歳)。謹んでご冥 福をお祈りいたします。

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字と)vol98(5文字)の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○-▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

青木和光(編集長), 市来浄與, 大栗真宗, 勝川行雄, 富永 望, 平松正顕, 廣田朋也, 馬場 彩, 前野将太, 町田正博, 吉田二美

平成25年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8 株式会社 国際文献社

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359(事務所)/0422-31-5488(月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2013年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)